

令和元年度 第1回 山梨県教員育成協議会 会議録

I 日時 : 令和元年7月23日(火) 午前10時~12時

II 場所 : 山梨県防災新館 408 会議室

III 出席者

委員 8人(敬称略)

齊木邦彦(会長)、中村和彦、池田充裕、廣田健、小澤建二、秋山俊一、古屋武人、山本 剛
事務局 17人

教育監、総務課長、学力向上対策監、義務教育課長、高校教育課長、高校改革・特別支援教育課長、スポーツ健康課長代理、総合教育センター所長、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課長、総合教育センター主幹指導主事、総合教育センター副主幹指導主事、総務課総括課長補佐、総務課課長補佐、総務課副主査、総務課主事

IV 傍聴者などの数 1名

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

本県では、やまなし教員等育成指標で示した資質・能力を、教員が主体的に身に付けていくために研修の体制と内容の充実を図っている。あらゆる年代の教員が、教員としての使命を自覚し、最後まで学び続けることが必要である。本県の育成指標及び研修の充実等に関し、ご指導とご助言を賜りたい。

3 委員自己紹介

4 報告

(1) 山梨県教員育成協議会の組織について

事務局

資料に基づき、山梨県教員育成協議会の組織について説明。

(2) 平成30年度山梨県教員育成協議会経過報告について

事務局

資料に基づき、昨年度の教員育成協議会の主な経過(「教員採用に係る改善点」、「総合教育センターにおける研修の改善点等」)について報告。

5 議事

(1) 令和元年度の研修について

① 令和元年度の研修

事務局

資料に基づき、令和元年度の研修について説明。

委員

「2019年度研修計画」の見方について、もう少し詳しく教えてもらいたい。

事務局

やまなし教員等育成指標の 15 ページにやまなし教員育成指標一覧表がございます。上のほうにピンク色で教職としての素養があり、横に採用時、それから全ステージと並んでいます。その下の青色の部分は、教職としての専門性で、左から右に、採用時、第1ステージ、第2ステージ、第3ステージとなっております。このステージは年齢もしくは採用から何年経ってということを表しておりますが、下のほうに学習指導、生徒指導、キャリア教育、特別支援教育、学校運営、新たな教育課題という項目が設けてあります。いっぺんにすべての項目をといるのでは大変ですので、ステージごとに重点的に伸ばしてもらいたい資質能力を黄色でハイライトしております。「2019年度研修計画」では、この表をもとに、それぞれ第1ステージ、第2ステージ、第3ステージごとに1枚の紙となっております。それぞれの育成指標に基づいて、研修内容としてどのようなことを要求しているのか。そして具体的にセンターでどんな研修を設定しているのかが、この研修計画で分かるようになっております。やまなし教員育成指標一覧表のほうでは、一覧性がなくて分かりにくいというものを細かく説明したのがこの大きな紙の表ということになります。第1ステージ、第2ステージ、第3ステージ、それから養護教諭、栄養教諭、そして校長と、たくさんの紙となっておりますので、大きな紙のほうは少し言葉が多くなっておりますが、それぞれの年代の先生方には、この大きな紙のほうを見ていただいて、自分の具体的な目標像というのを見ていただくということでこの表を作っております。

委員

意見ということをお願いします。

平成 30 年度の成果に、半日研修は出やすかったと感想に書かれています。学校現場をあずかる者としましては、若い先生方、中堅の先生方も含めて資質向上を図って欲しい、自分のスキルを高めて欲しいという願いがあります。

一方で、例えば小学校のような場合、終日、朝から学級担任が、学校を空けるというのは現状非常に厳しい状況があります。夏休みであれば、あるいは半日午後からであれば受けられるというような先生方もたくさんいらっしゃると思っています。そこで、午後から研修が受けられると、学校側としては非常にありがたいと思っています。

これは、質問になりますけれども、昨年度から半日研修が開始されているということですが、昨年度に比して今年度さらに半日の部分が増えている状況があれば教えていただきたいと思います。

事務局

昨年度の段階でほとんど半日化は済ませておりますので、今年度大きな増減というのはないと記憶しております。

②「フォーラム 山梨県で学校の先生になろう」

事務局

資料に基づき、「フォーラム 山梨県で学校の先生になろう」について説明。

委員

教育委員会で綿密な準備をしていただきまして大変感謝をしております。私も声も掛けていましたが、定員 200 名に対し現段階で 40 名ということですが、今後の見通しはいかがでしょうか。

事務局

担当者の方でも様子を見ながらというところがありますが、大学生の皆様の行事ですとか動きを見ながら、一応 7 月末、7 月いっぱいを取りあえず第一次申し込みとさせていただいております。今後、テスト終了後等にお申し込みいただけるという見込みでおりまして、各大学の先生方をお願いにあがりました時にも各大学の教職課程の状況なども伺いまして、その中で大体の数字をよんだりしたというのがございます。大学生で 100 名ちょっとぐらいは集まるのではないかという見込みでおりまして、高校生で、80 名前後を考えております。見込みとしてはそれぞれの大学の実態に合った形でお申し込みいただけると考えています。

委員

もしも必要のようでしたら、各学生に渡しますのでお声かけ下さい。

事務局

ありがとうございます。また各大学の状況を見ながらお願いにあがればと思います。本当に大学の先生方にはお忙しい中お話を聞いていただいたり、ご対応いただきありがとうございます。

委員

内容についてですが、今お話になっていた高校生向けと大学生向けについては、全く同じ内容でやるのか、それとも違った内容でやるのか、今、原案としてはどうなっていますか。

事務局

原案としましては、目的は同じになりますので、基本的に大学生の部、高校生の部というふうに明確に分けるような予定は今のところは立てておりません。時間も 2 時間ということで非常にコンパクトにしておりますので、いずれにしても一番の目的を山梨県で教員として人生を送るメリットということで考えております。大学生の皆様は教職課程も取っていらっしゃるかとしまして、かなり現実的に考えていらっしゃるし、高校生はまだこれから進路を決めていくという段階ですけども、先を見越してどこの大学に行っても山梨に帰ってきて、そして教員として生活をしていく、教職としての専門性を追求したり、ワークライフバランスも考えながら、山梨で教師として一生を送っていくというようなところを一番の目標に考えています。それに向けては大学生、高校生、ある程度同じような内容でいいのではないかと考えておりますが、今後詰めていく中では研修の参加者にそれぞれの講師の先生方がいますので、例えばパネリストから話をしてもらう段階で、小中高特支、それぞれのお立場からのお話がしていただければと思いますので、そのようなところで多少の差別化ですとか、焦点化をしていければというふうには考えております。

委員

これは参考意見ですが、ほかの二つの大学もそうだと思いますけれども、教員になりたくて大学に

入る学生の志望が、1年生の入学時から2年、3年、4年と進むにつれて、いろいろと変わってきます。統計を取っていて今確実に分かっているのは、実は1年次が高校、中学の先生になる希望率が非常に高いということです。ところがやっていくうちに段々、実習などもあり、状況が変わってきます。その辺を踏まえて、私の個人的な意見では、もちろん高校に進学しているので高校の先生に憧れて先生になりたいという人は当然多いと思います。でもある程度やって、小中学校を希望するというのを最初から持っている、教職支援のやり方も変わってくると思います。だからその辺も一つデータとして提供いたしますので、お考えになるといいかもしれません。

それから大学生もやはり、入った時から4年までで教職の志望率というのはどういうわけか下がっていきます。最初はみんな教員になりたいと入ってきて、まあいろんな状況の中で下がっていきます。うちでいうと最終的には大体受検をする学生というのは70パーセント以内という形になっていて、もちろん山梨県出身の学生さんも多いわけですが、学年に応じて多少違いがあるんですね。特に大学の3年生、つまり実習を経験するかどうかというのは大きな違いなので、その辺をちょっと今の先ほどプレゼンのお話になった内容も分かるんですけど、少しそこは考え方を変えて、大学生にある程度リーダーシップ取らせて何かワーキングをするというやり方もあるのかなと思います。特に、3、4年生にも紹介しますが、4年生は実は採用試験を受けさせていただいている学生たちですので、ちょっとまたその辺は少しバランスを取ったほうがいいというふうに思っています。

委員

実は3年生中心に配布したのですけれども、余り反応が良くなかったので聞き直してみたら、3年生だと次4年で受検ということで、この内容だと今一つ聞きたいこととずれてしまうというような話がありました。やはり3年生の多分10月頃になると具体的にもうちょっと、それぞれの地域のことだとか、具体的な話をということだと思います。このフォーラムの中で一番大きいのは教職を目指してもらおうという形で、1年生、2年生を中心にやりたいのか、それともある程度もう決めていて、特に3年生だと実習を終えているか、実習中かということもありますが、山梨のことを知りたいというようなことで、やはり内容が違ってくるのかもしれませんが。会場までが特に遠いので、もし3年生を相手にするのだったら、もうちょっとこういうことなんだと分かるような体系のものにしてもらって、1、2年中心だったらこういう形でいいのかなと思います。

事務局

こちらも初年度ですので、最初1、2年生というふうにも考えていたんですが、やはり大勢の大学生の皆様にも参加していただきたいというような気持ちもありましたので、ちょっと焦点がぼやけてしまったところがあるかと思います。また今後、今大変貴重なご意見をいただきましたので、いろいろな形で参考にさせていただいて生かしていきたいと思っております。ありがとうございます。

会長

具体的に大学の方で、3年生の学生にも勧めるべきなのか、あるいは勧めるべきでないのかという悩みがあると思うんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

事務局

割合についてはちょっと少ないのですが、パート2の方で教員採用試験の情報提供もしますので、

来ていただきたいと思っております。もう一つは、一般的な教職ガイダンスだけではなく、山梨に焦点を置いているというところもありますし、運営参加の先生方をやはり現場の先生方にしているというところが今回のポイントだと考えておまして、もちろん教職を取ってもらいたいということもあるんですけども、取ったあと具体的にどうなるんだろうとか、山梨に帰ってきたらどうなるんだろうかというようなところをぜひ聞いていただきたいと思っております。フォーラムの内容が全部の学年の在学生の皆さん、あるいは高校生の皆さんに100パーセント生かしていただけるかは分かりませんが、3年生対象のもので、2年生対象のものでという形式では、今のところできるかどうか分かりませんが、どこかの部分でご活用いただければと考えております。まず山梨で教員になったらどんなことになるんだろうかというようなことを想像していただけるような形だと、共通して興味を持っていただけるんじゃないかなと企画の段階では考えているところです。

委員

本校でも生徒たちが入ってくる2階の所にこのチラシ貼ってあります。教育学部志望の子だったら行くように声は掛けやすいなと思ったのですが、大学生にとっては何が必要なのかというのがちょっとよく分からないなと思ったところです。高校生については多分これでいいと思いますけれども、大学生についてはもうちょっと大学側とコンタクトを取ってもらったほうがいいのかなという感じがしました。

委員

山梨で教員人生を送ることのメリットという意味では、やはり現場の先生が自分で実践を踏まえて話をするということはとても大事なことだと思いますし、それを聞いて魅力を感じてもらえればいいなというふうには思いますけれども、本校にも教育実習生も来ますし、介護等体験の学生さんが100人ほど来ますが、二日間の介護等体験をして、特別支援教育にすごく興味を持ってくれる学生さんが増えます。そういう意味ではやはり実際に子どもに係わってどういうところがメリットであるとか、本当に楽しい教員人生、教員として楽しいんだというところをぜひ大学生にも高校生にも訴えてもらって、自分もやってみたいと思えるようなフォーラムにしていだけるといいなと思います。

委員

高校生は、10月のこの時期は多分新人戦にあたるので、1、2年生は参加が難しいかもしれない。3年生ですけども、例えばこの時期だと教員になりたいというのをほぼ思っている子たちでいいかなと思います。1、2年生にはちょっとここは厳しいかなと思います。

委員

素晴らしい取り組みだなというふうに思います。人材確保、人材難という部分でいきますと、高校生、大学生のところからこういうアプローチをしていくということは、しかも県内の大学にも協力をいただくというのは非常にいい取り組みだなというふうに思っています。今世間では教職がブラックのイメージというのが広がっている部分があるように思いますが、特に高校生それから大学生にも、先ほど他の委員さんからもありましたように、教育学部に入ったけれども教員採用試験を受けないという学生さんがたくさん、ある程度一定割合いる中で、山梨での教職の魅力という部分をPRしていく、アピールしていくのに、ぜひいいイベントになればいいと思っております。

これは蛇足になるかもしれませんが、私の認識不足であれば申し訳ないですが、帝京科学大が教職課程を作り始めているのではと思います。どの程度教職を取られている学生さんがいるのか把握はしていませんが、また距離的に若干遠い部分がありますけれども、一人でも二人でも参加してもらえればと思います。

事務局

ご案内のほうについては渡させていただいておりますが、小・中・高・特の過程が上野原のほうにはないような状況がありました。また案内をしていきたいと思っております。

委員

日程のことですが、この辺で固定されるのでしょうか。今年はオープンキャンパスを2回にしたので、ずれたりしたこともあるのですが、多分オープンキャンパスとかに当たると高校生を取り合ってしまうのではないかという気がしていて、日程の調整が事前にできるのか、あるいは固定でこれは2週目ぐらいにするというのであれば、その日程に対応することも必要になってきます。

事務局

日程につきましても特に今年度新たに設定をしていったのですが、1回目の研修日につきましても、それから二日目の研修日及びフォーラム当日につきましても、まだまだ改善の余地があると思います。今ご意見をたくさんいただきましたので、それを十分考慮して、また今後の日程の立て方については、事前によく調査をしながらする必要があると考えております。

委員

この内容に直接合っているかどうかちょっと分からないのですが、私が接した例をお話させていただきます。市町村の職員と話す機会があるのですが、「僕は、私は教員になりたかったんだ。教員試験も受けて市町村の公務員採用試験も受けたんだけど、教員のほうが受からなかったから、そしてこちらのほうが受かったから市町村の方に決めました」という方に何人も会いました。とてもいい方で優秀な方だったので、がんばって欲しかったなと思ったのですが、やはり山梨県でいつ教員になれるのか、どうやったら教員になれるのかという道がちょっと今一つ分からなかったところがあるのではないかということを思いました。と言いますのも、新採用ですぐに採用される方が山梨の場合、特に少ないと思うんですね。期間採用とか、いろいろな経験をする中で継続して試験を受検して教員になっていくという方がかなり周りにいらっしゃるので、そういうことも分かっていたら、もうちょっと期間採用とか非常勤でがんばってやってみようかなという気持ちになったのかもしれないと思いました。身近な例だったので、情報提供がその人に余り届いていなかったのかもしれないと思いました。

もう一点は、県外の教員養成大学に近所の知り合いが通っていて、たまに相談を受けることがあるのですが、大学2年の時にどこの県を受けるか決めるとのことです。その大学では、大学1年生が終わったら2年生の時はまだ山梨県を受けるとか、どこかの県を受けるとか、もう学校の全校体制で決めていくという話を聞きました。大変迷っているというのを大学2年になる時に聞いて、ちょっと相談をされたのですが、やはりそういう方も山梨の教員にどうやったらなれるのかというところを知りたいんだと思いました。その辺の情報がもうちょっと大学生とか高校生に伝わっていけばいいの

ではないかと、お話を聞きながら思いました。

事務局

大変貴重なご意見ありがとうございます。教員採用情報も含めて教員採用試験の情報ということで提供できるようにしたいと思いますし、今の県外の教員養成大学の話聞きまして非常に新しい情報でありがたかったですけども、県外に行く学生さんももちろん多いので、先ほど申しあげました一次案内については、この春3月の高校の卒業式の段階で、高校生、全高校に一次案内のチラシを配布させていただいております。現にそのチラシを見て、二次案内を公表する直前に、一次案内のチラシを見て電話をしてくれたというような学生さんもすでにいたりとか、今年になってからコンタクトを取っていない県外の大学の学生さんからも問い合わせがあったりとかというようなこともございましたので、今話を受けて県外への広報についても引き続き検討していきたいと思っております。

③研修履歴票

事務局

資料に基づき、研修履歴票について説明。

委員

総合教育センターの先生が中心となり、かなり時間を掛けて作られて実施されたということで非常に評価が高いのですが、OPPAなので今ご説明いただいたように、基本的には個人が長い教職の歴史のキャリアステージについて、どういうふうなことを考えてきたかということをそれぞれの研修会の時に書きながら、ステージごとにも書いていくことはこれももちろん重要ですけども、実はポートフォリオで同じぐらい重要なのは、受講者たちにどのぐらいの効果があつたのかということに対し、その研修を実施する側も評価ができるというところに意義があるんですね。全部は私も難しいと思うんですけども、例えば何か特徴のある研修でそういうのをご覧いただければ、そのことについて実際に受講者はどう思っているのかというようなことは把握できるし、それをまた将来的なその研修の在り方に生かしていくということも大事であると思っております。

私も授業で使うんですけども、必ずコメントを付けるんですね。コメントと言っても簡単ですよ。それは素晴らしいとか、オッケーとか、線を引くだけでもいいんです。それで持って相手とやり取りができるというところが、ある意味ポートフォリオの意味があるので、ゆくゆくですけども、そういったことも含めて研修の振り返りに使えるというのがせっかく作られたポートフォリオの有効的な利用価値だと思いますので、またご検討いただければと思います。

委員

先ほどの研修計画のほうの教員育成指標に従って今年度からマッピングをしていただいて、このポートフォリオの方と付き合わせて本当にどういう部分がまだできていなとか、どういうふうに履歴を作ったとか、非常に体系的に作られるようになって、とてもよく分かりやすくなったかと思えます。

それで私もちょっと他県のものなんかも拝見するんですが、その履歴と共に、やはり今後の短期目標とか長期目標とか、今後自分がどういう研修計画を立てるかという、そういうことを書いてもらっている教育委員会も多いように見えるんですけども、本県の場合、今後の見通しとか計画をそれぞれ自分なりに整理してまとめていくことについて、何か手立てのようなものはありますでしょうか。

事務局

今後の短期目標ということを書く欄は、ここではまだ設定はしてはいませんが、やはり育成指標なり教員のキャリアステージを見越して、こういうふうなところが必要だというふうに、この表の中で見ていただくということができると思います。また、活用の事例としましては、各先生方が作成する自己観察書にも研修の内容、研修の成果とか目標等を個人個人が書き留めるところがございます。それを所属長の先生方に見ていただいて、面接等に使ったりしていただきますので、実は活用の事例の検討内容ですけれども、これを単独で使うだけではなくて、これと自己観察書を同時に活用していたり、併用していたりとかというようなことも事例として検討していきたいと考えています。

④令和元年度「法定研修」実施状況

・初任者研修

事務局

資料に基づき、初任者研修について説明。

委員

最初の報告にもあったんですけど、やはり多忙化解消というところが非常に大事な課題だと思います。それで今ご説明いただいた初任研なんですけれども、前からこの協議会で話をしているんですが、今教員養成大学って、養成よりも育成のほうに完全にかじ取りをしていますので、いろいろな意味で大学を活用されているのかなというふうに思います。初任者研修の弾力化の通知については、同じものを教員養成大学もいただいてまして、例えば教職大学院のストレートマスターは定員 24 ですが、そのうちの半分は他の大学から来られてますが、ここでは1年間で 200 時間の実習をやっていますから、ある意味うまくタイアップすることで、まさしくここに書かれているような教職大学院の修了者に対するある程度の緩和ができます。効率よく初任研の時数について、初任になってからのものを減らして、教員大学院にシフトをするということも可能だろうと思います。

同時にいわゆる臨時的任用ですか、臨採の先生方に対する取り組みにしても同じだと思うんですけども、5月の終わりにやっています、100 何名、うちの大学だけじゃなくて、県内の大学さんの卒業生なども含めてやっております。そんなのをうまく利用していただくとか、そこをうまく活用して、うちももっともそれを増やしていても構わないので、ほかの大学さんとも協力しながらやってくればいいと思いますし、最後にある3番目の教師塾については、かなりいろいろなところで、静岡県も東京都もやっていますから、これが何かうまく作ってできれば、まさしく学生のうちから初任研の研修の一部をまかなうことができると思うんですね。

教師塾そのものは基本的には県の教員委員会と、その県内の大学が協力してやればいわけなので、まさしくここに書かれている課題は徐々にこういったところで効率化できて、それが私はやはり先生方の多忙化をある程度解消するのにつながる。学部や大学院のうちからそういったことをきちんとやっていける教員体制をもとにということとは十分可能なので、ぜひこの辺は、今年度も含めて具体的に検討させていただければと思っています。

会長

ありがとうございました。

大学のご協力もいただきながら、初任者研修の全体的な見直しということも大きな課題でございますので、ただすぐというわけにはなかなかいかないと思うんですけども、議論を重ねて多忙化ということにも資する研修をと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員

初任研の部分では、初任者に様々な研究を受けてもらって早く一人前になってもらいたい。これは誰もが願うところなんですけれども、実際に事務局の方で様々な、例えば日数を減らす、あるいは宿泊研修も期間を短くする、それから報告要旨についても簡略化できるところはしていただくなど、様々な取り組みをしていただいていると本当にありがたいというふうに思っています。ただ先ほど課題の部分にもありましたけれども多忙化という部分でいきますと、初任者がやはり一日研修へ出て、多い時は隔週あるいは2週に一度研修に出ますね。研修から戻ってくるとレポートを書かなくてはならない、それから担任の学級の仕事をしないといけないとか。実際に昨年度私の学校にも2人の初任者がいましたが、繁忙期にはやはり時間外が過労死ラインを超えるというような時間まで残って仕事をしているという実態があります。今まで様々な工夫をしていただいているんですけども、さらに改善できる部分はしていただければありがたいというふうに思っているところです。

これから新採用の先生方が増えてくるという現状において、例えば1校に複数配置というところもたくさん出てくるかというふうに思います。初任研がある時にやはり1人ないし2人が抜けていくという部分では、学校運営という部分においてもできるだけ、まあ研修はして欲しいんですけども、効率的なという部分を考えていただければありがたいというふうに思います。

・中堅教諭等資質向上研修

事務局

資料に基づき、中堅教諭等資質向上研修について説明。(質疑なし)

⑤その他

・「山梨県における教員育成推進事業」における山梨大学との連携

事務局

資料に基づき、「山梨県における教員育成推進事業」における山梨大学との連携について説明。

委員

昨年度は文科省からモデル事業の予算が出るということでやっていた事業なんですけども。先生方からもこの評価が高かったので、今年度は文科省の事業ではなくなりましたが、学部の予算を使って今年度以降も継続してやっていこうということで、まさしく委員さんの方のご意見をいただきながらより良い形だと思っています。そして、高校はすごく早めにこういった形で計画をしていただきまして、今、実は4つの教育事務所ごとに大体4校か3校ぐらい挙げていただいているので、これまたプラスアルファであと15校ぐらいにまた行かせていただきたいと思います。実はここに行く先生方、

今名前が挙がっている5名の先生方がいるんですけど、みんな教科専門の先生です。教科教育ではない。ですから例えば先端の教科の内容ですね、そういったこととか具体的にもうちょっと細分化した領域について非常にお詳しい方が来て、そういった方々のある意味ちょっと別の切り口ですよね。それをまた活用していただければいいと思っています。逆に我々のほうも教科ゼミの先生方が現場に多く出向いて、ご自分のやっている仕事の延長上に教職があるわけですから、そういうことを学ばせていただくということで大変はありがたいと思いますので、ぜひ今後とも一緒にご協力して実施させていただければと思います。

委員

昨年度このような話をいただきまして、指導主事の見線はもちろん大事ですが、また、別の見方、大学の先生の立場でのお話というのは非常に有効だと考えておりますので、ぜひまた引き続きご支援、ご指導をいただければと思います。よろしくお祈りいたします。

委員

大学の教職センターには、センターの企画としてやるものの中に、時には県の研修に役立つものがある。保護者への対応や学級経営に係わるものとか、あるいはまだ計画段階、試行段階なんですけれども、10年目ぐらいまでを対象に卒業生や、地域の人たちに悩みを相談しながら学校経営なり、学級経営をどうやっていこうか何ていう話し合いをする研修を持ったりするんですが、そこに出席することで、もちろん事前にこちらにお話しをしなければいけませんけれども、研修の一部として認めていただくとかという形にするとか、場合によっては大学の企画の中でも、有効なものは研修として指定をしていただけるような形になると負担減につながると思います。

(2) 令和元年度各部会検討事項について

○検討課題

- ・「山梨県教育大綱」「山梨県教育振興計画」と「やまなし教員等育成指標」との整合性
- ・初任研の弾力化

事務局

資料に基づき、令和元年度の検討事項について説明。

委員

お聞かせいただいてよろしいですか。この初任研の校外研修の日数ということですね。文科省のほうは25日ということなので、弾力的に運用をとということなんですけど、その23ページのグラフを見させていただくと、今少ない教育委員会もあるということなんですけれども、一定程度の決まり事というのがあるのでしょうか。

事務局

初任者研修というのは1年で、1年目に仕上げるということになっておりますので、2年目、3年目に持っていくということは3年間で実施するという形になりますので不可能です。ただ、他県の様子を見ますと、2年目研修、3年目研修を充実させて初任研を減らしているというような状況だというふう理解しております。

○検討すべき課題について意見交換

委員

働き方改革があって、少し研修を減らしたいというのがあるが、一方で教員には研修をさせたいというのがある、二律背反なんですけれど。何年か前から高校は教科教育をしていますので、教科の部会とセンターの教科研修講座を一緒にやっているところがあります。教科教育の部分であればそれでもできると思うので、例えば中学校ではひよっとしたらできるんじゃないかというのが1点です。

それからもう一つ。山梨大学との連携というのがあったので、先生を派遣してもらって指導主事と対話をみたいということがあったんですけども、大学の先生に来ていただけるのは非常にありがたいなというふうに思います。教科研修に係る中高であればそういう研修も可能ではないかというふうに思うので検討していただければと思います。

委員

気になっていることということでお願いしたいんですけども。学校訪問なんかをしますと、昔に比べると県費の先生のほかに、市などたくさんいろんな先生がおられます。やはり学校というのは合意を、みんなで共通理解を図りながら教育を進めるというのが大事だと思うんですけども、そういう方たちが、今学習指導要領の改訂とか、そういうことが進んでいる中で、研修とか学ぶ機会といいますか、そういうことをどういうところで学んでいるのかなということがちょっと私は気になりました。もちろん学校の校内研とか同僚と学ぶとか、いろんなことがあるわけなんですけど、今日出たような研修の中にどんなふうにそういう人たちは学ぶことができる機会が用意されているのか、その辺を教えてください。

例えば教科によっては非常勤で何校も回ったりとか、そういう形にいる先生もいるんですけども、そういう方たちもやはり学習指導要領が改訂されたりとか、いろんな新しい情報が必要になると思うんですけど、そういう非常勤の先生にそういう情報が届いているかどうかなんですけれども。

事務局

一応センターの方につきましては期間採用の先生、それから講師の先生方、あるいは義務の市単、町単の先生方ですとか、産休代替の先生方を対象に、所属長の許可をいただければ研修会の方にお申し込みいただいて参加することが可能ですので、各学校にこういう、今、お手元にあるようなこのような研修会の一覧がございますので、それを見ていただいてご参加いただければと思いますし、こちらの方としてもそういうふうな研修会については広報に努めていきたいとは思っておりますので、ぜひご参加いただければと思います。

会長

例えば、指導主事の教科訪問で研究協議をするという時には、非常勤の先生もそこに加わることがあって、一緒に研究協議をとるところもありました。

委員

都留文科大学は都留市となんですけれども、協定を結んでいて市単の教員に研修を実施しています。日にちと日程の問題があるんですが、現在も行っています。

会長

教員の資質能力の向上という時には期間採用の先生、非常勤の先生もトータルに考えていくということですね。

委員

研修の中身はセンターのホームページですか、入っていく時にパスワードがありますね。これは多分何らかの意図で、研修を受ける方は見えて、ちゃんときちんと受ける対象者を明確にするということの意味があるのかと思うんですけど。できれば、実は学生の中で現職になってからどんな研修をやるのか見てみたいという学生がいるんですね。それを全部受け入れてしまうと大変なことになるんですが、例えば県内の教職を持っている大学にパスワードを教えていただければ、実は我々が今やっているのは、この県の「やまなしの教員等育成指標」に合わせてカリキュラムを変えているんですね、改善しているという作業をやっています。そうすると中身が具体的にどんな研修の中身とうちがタイプアップできるか。例えばこの将来山梨の教員になった時こういう研修を受けるんだけど、今学んでいることはこの部分だよということを言えると、山梨を受ける学生というのは非常にある意味説得力があると思うんですね。そういうものを作っていくということも大事だと思うので、ご検討いただければと思うので、できればちょっとそういうものを見れるような仕組みを作っていただければ、無理じゃなければですね、ありがたいと思います。

事務局

ありがとうございます。システム担当から説明させていただきます。その話はやはりあちらこちらからいただいております、一般の教員もパスワードなしでさっと見れるようにして欲しいというような話が来ております。ただ私どもの方でもなぜパスワードをかけ始めたのかということもちょっとさかのぼって精査しないと、ということもございます。今考えられるのは、あやふやな情報が出回ってしまっていることを少し避けるためかなというふうには思っておるんですが、今年度分のセンターの改革の一つとして、これだけですと情報量が非常に少ないですから、できる限りの情報を個別の先生方、それから外へ示せるようにしたいというふうには考えております。

会長

それでは多様なご意見をありがとうございました。いただいた意見をもとに事務局の方で新たな計画を進めていただければと思います。

(3) その他

事務局

特になし

委員

関連した内容でよろしいでしょうか。先ほどの研修、初任者研修が1年目にあるんですけども、義務教育課では3年目までの職員を対象に、2年目、3年目に、今年は330名ほどを対象に年間4回で

すね、1回4時間学校に行きまして授業を見た上で指導を行うということで、退職した教員がアドバンスティーチャーということで学校訪問をしながら指導するというようなことをしております。これは初任研が終わった方だけではなく、期間採用の方も対象になっていますので、かなり人数が多いというふうな状況になっています。先ほど非常勤の話がありましたが、もちろんなかなかまとまった研修はできないんですけども、授業研の準備という時間がある程度取りますので、そういう中で多少準備をしていただくということは可能になっております。

ちょっと話は別件なんですけども、先ほどの山梨県で学校の先生になろうという話で、3年生、4年生を対象にということがありましたが、3年生、4年生の対象には志願書が出た段階で県内の数校と、あとは千葉大、信州大、学芸大、文教大、帝京大など、幾つかの学校を、かなり20近い学校、県外も含めて直接訪問をして、志願状況ですとか、願書の書き方とか、山梨県でどんな教員を求めているのかというような内容で、いわゆる時間を取っていただいて、大学によっては単位という形でやっている大学もありますけれども、そういう中で説明をしながら進めていくことをしております。

委員

細かな部分になるかと思うんですが、小学校の場合には2年研という形で体育実技の研修があるんですけども、夏休み中のものはこれはいいかなと思うんですが、水泳の実技関係が授業日、水泳の授業学習が始まる前という部分では非常に理解ができるんですけども、集中する二日間ですか、先ほど言いましたように本校でも二人2年目の先生がいます。担任が二人抜けるというのは、非常に学校経営上厳しい部分がありまして、例えば午後からの、先ほどのセンターではないですけども、午後から研修をしてもらうというような部分であると非常にありがたいかなという部分が1点です。

もう1点は、この教員育成指標、非常に素晴らしい取り組みだなというふうに思っています。ただ情報を得ながら各学校現場で当然教員に周知はしていくんですが、こういうものが出ているよと、私なんかプラントアウトしてリコピーして、先生方自分のステージは今ここですよという話をするんですが、なかなか時間が取れない。ポートフォリオの部分もこういうのができるんだよ、できているんだよと言っても、先生方一人ひとりがなかなか確実に理解しきれていない。例えばセンターの夏休みの研修等の折に、今こういうものが作られていますと。一人ひとりに配布をしなくても、育成指標を見て今日のこの研修はここに当てはまります、というようなアナウンスをするだけでも先生方が意識をしてもらえるかなというふうに思います。また夏休み中、例えばセンターのところ少し大きめの掲示をしておいていただいて、この研修はここに当てはまります、ご覧下さいみたいな形でもいいのかなというふうに思うんですが、もう少しせつかくの素晴らしい取り組みなのでPRができればいいのかなというふうに思いました。

6 報告・連絡

○今後の日程等について

事務局

この協議会は例年3回実施しております。昨年とほぼ同様の時期を予定しております。またあらかじめご連絡をさせていただき、日程の方を確認させていただきます。第2回につきましては、令和2年度の研修計画についてご意見を頂戴することになります。

○その他

事務局

昨年の第3回の教員育成協議会でご質問があった内容について回答させていただきます。

まず免許の二種から一種へのニーズはあるのかとのご質問がございましたけれども、現在県の方では中学校に対する講座はニーズがないということで行っていないということでございます。小学校につきましてはニーズがあるということですが、昨年度は10名程度であったということが1点目でございます。

もう1点は、新規の期間採用の研修の受講状況でございますけれども、本県では1日行っておりまして、内容が教員の服務規律に関する法規、そして指導と評価ということで行っております。昨年度は121名が受講し、そのうち希望で受講した者は20名といった現状でございます。

7 閉会